

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム のぞみ

## 目標達成計画

作成日: 令和5年3月28日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら

優先して取り組む具体的な計画を記入し※外部評価実施軽減手続きに必要な参考資料となりますので、必ずご記入の上、写しを県社協へご提出ください

【目標達成計画】					
優先順	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	職員数の少ない時などに、利用者に対して、行動を抑制する言葉や否定する言葉などが聞かれる。	スピーチロックが身体拘束として認識しなければならぬことや、自らのコミュニケーションの傾向や特徴を踏まえたうえで、個々の利用者の言動の起因となることを把握し、その方の欲求を満たすことや困りごとを事前に解決することでゆとりある環境を作る。	研修でスピーチロックのロールプレイなどを行い共感的理解を深めスピーチロックを防ぐための方策を職員間で検討する。	6カ月
				基本的ケアの徹底とアクティビティの充実を図る。	6カ月
				職員全員が利用者個々の行動パターン等を共有する。	3カ月
				周辺症状のある方を対象にプロセスレコードを記録し、職員個々のコミュニケーションの回り方の特徴を自覚し、その方の言動に起因していないか考える。	6カ月
				その方のできることを、わかることや生活歴、趣味趣向などバックグラウンドに着目し、個々の利用者のストレングスを見出し、肯定的なコミュニケーションを図っていく。	10カ月
2	6	職員によって事故防止に対する意識が低い、また、事故後の対応に関して徹底されていないことがある。	職員一人ひとりが事故防止の意識を高めるとともに、事故が起きてしまった時においても、統一した対応がとれるようにする。	ヒヤリハットの記録や危険予知訓練などを通して、事故防止の意識を高める。	6カ月
				事故後の対応について既存のフローチャートにより研修を行う	2カ月